興讓館野球部ＯＢ会
会報
第 28 号
■発行日／平成30年12月12日㈬
■発行者／小 野 隆 夫
■発行所／〒992-0054 米沢市城西4－4－16 井 上 恭 男 ☎ 0238（22）4078
■印　刷／㈱羽陽印刷 ☎ 0238（23）0467

興讓館野球部ＯＢ総会　平成30年８月15日　於 ホテルモントビュー米沢

会報28号に寄せて

興讓館野球部ＯＢ会
会長　小 野 隆 夫

今年も全国的に地球温暖化の影響による想定外の降雨量や地震、台風等での自然災害の多い年でありましたがＯＢ会員の皆様には恙なくお過ごしのことと拝察いたします。

当、米沢市に置きましてはこれという被害がありませんでしたが、全国各地で被害を受けられた方々には心からお見舞い申し上げます。

さて、本年も我が野球部ＯＢ会会報第28号の発刊の時期となりました。会員皆様のご協力により毎年内容のある会報が発行できること大変嬉しく思います。会としましては今年度も予定された事業を粛々と遂行できたものと思います。

今年は役員会及び学年代表理事会を４月に開催しました。特に総会への参加者を多くする方法等について担当学年を決めて実施してはどうか等建設的なご意見が多く出されました。

総会につきましては本年度もお盆の開催ということで８月15日㈬約23名の参加者で開催いたしました。事務局提案の事業計画、決算、予算等のご承認をいただきました。学年代表理事会で提案のあった問題についても議論していただきました。

こととしも総会の日の午前中は、現役１，２年生とＯＢとの試合そして午後はＯＢ（現役３年を含む）同士の試合が行われました。昨年同様大学生を中心に多くの参加者があり世代を超えたＯＢ会の交流として定着してきている感じがいたします。若い方が中心の事業かもしれませんがこれからも継続していきたいと思っています。

母校興讓館高校では４月の人事異動で長く監督をなされていた多田先生が転勤になり新しく長井高校から吉田真悟先生が赴任し監督となりました。

今年の夏の選手権大会は節目の１００回目の大会となりました。１回戦寒河江高校に勝ち、２回戦で長井高校に勝ちベスト16に入りました。しかし３回戦で酒田南と対戦し敗れました。３回戦突破の壁はかなり厚いように思います。

今年は１００回の記念大会という事もありますが大会に向かう現役選手からのメッセージという事で３年生11名からの一言を頂き会員全員に送付いたしました。球場まで足を運んでくださるＯＢ会の皆様から応援いただく際に、選手のことを少しでも知っていただきたいという事で小林部長（ＯＢ会員Ｈ６年卒）さんが纏めてくださいました。

そのメッセージを見ながら応援することにより、ＯＢ会と現役との繋がりも深まるような感じがいたします。

秋の新人戦では地区代表として県大会に出場し１回戦新庄北高に勝ちましたが２回戦で日大山形高校に敗退しました。次年度に大いに期待したいと思います。

最後になりますが私事で申し訳ありませんが急に病気に罹り手術入院となり会としては一番大切な総会を欠席させていただきました。遠藤副会長に全て代行していただきました。色々な面でご迷惑をおかけし大変申し訳なく思っています。何とか９月に退院し養生しながら生活しています。

会員の皆様には年会費納入等いろいろな面でのご協力よろしくお願い申し上げます。

（平成30年11月10日、記）

ご挨拶

校長　横戸　隆

興譲館野球部ＯＢの皆様には、常日頃より本校野球部へ物心両面にわたりご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今年の夏は、例年にない記録的な猛暑日が続く夏となりました。そんな中行われた今年の甲子園予選山形大会。運よく1、2回戦は地元、大先輩の名を冠した皆川球場での試合となりました。1回戦の対寒河江高校と組合せが決まったある日、自治会長と応援団長が3学年全員で応援をさせてほしいと校長室にやって来たのです。最後の夏を共に戦いたいという3年生の熱い思いを胸に、選手たちは溌剌とプレー。7回裏に大逆転劇を演じ、5対2で勝利しました。そして皆川球場に響き渡る校歌を聞いた時には、興譲館高校に今在ることへの誇りと喜びを感じさせるものでした。そして有志応援となった2回戦もこの勢いで長井高校に勝利、ついに3回戦に進出。4年ぶりとなる全校応援となりました。七月十九日快晴、バス13台で朝7時に学校を出発、山形市のきらやかスタジアムに向かいました。対戦相手は本大会第5シードの酒田南高校、応援席を3塁側スタンドに陣取り、互いにエールを送り試合が始まりました。一回表の立ち上がり、吹奏楽研究クラブの演奏と全校生の大きな声援を背に、2点を先取、見事な攻撃でしたが、地力に勝る相手に点を重ねられ5回コールドで敗れました。しかし、応援団を中心に暑さにめげず一打一投に弛まぬ大声援を送る興譲館生、選手は最後の最後まで諦めず、「不撓不屈」の精神で戦う姿がそこにありました。たかが野球、されど野球。選手と応援する生徒が一体となって「チーム興譲館」で共に戦かった熱い暑い夏となりました。

そして戦う選手たちの姿に、大先輩・皆川選手の「フェアプレー」の精神や「一球入魂」「不忘恩」「自捨不惜身」等の精神が、時空を超えて今に受け継がれて生きる興譲館野球部の原点を垣間見たような気がしました。

いま、先輩の思いを引き継いだ後輩たちは、限られた時間の中で工夫しながら日々地道な練習を重ね、新しいチームづくりに頑張っています。生徒には、野球部創設以来これまで先輩が築き上げてきた素晴らしい伝統を受け継ぎ、チーム力の向上と共に、人間力を磨き、世のため人のために逞しく生きる人に育ってほしいと願っています。

結びに、皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、ＯＢ会の益々のご隆盛と皆様のご健勝をご祈念申し上げご挨拶とします。

中沢秀隆（昭和58年卒）

当時、私が通っていた小学校にはスポーツ少年団など無く、運動といえば放課後にクラスの仲間とやった草野球でした。その延長で中学では野球部に入りました。

私が中学2年生のとき、甲子園予選山形大会で興譲館が快進撃の活躍を見せました。その試合がＴＶで流れ、私は「また勝った。興譲館はすごいな。」という想いと、高校生になったらあの舞台に自分も立ちたいという憧れを持ちました。更に、その年の甲子園。ＰＬ学園が奇跡的な逆転劇で初優勝。これまたＴＶに見入り、一喜一憂。野球をやっている者は、一度は思う「甲子園にいくぞ」という夢を私も抱きます。翌日から「目指せ、甲子園」でランニング開始。しばらく続くも降雪とともにフェードアウト。

昭和55年4月、米沢興譲館高校に入学。もちろん野球部に入部。監督今英三郎先生、部長岩木信孝先生の下で高校野球が始まりました。この当時（今から40年も前）のことは殆ど記憶に残っていませんが、それでも思い出されるのは三つのことです。一つ目は、とにかく三年生が怖かった。体も大きかったがそれ以上に威圧感がすごかった。三年生の前ではまともに顔を見ることが出来ず、何を言われたのかも分からないまま「はい」と応えていたような気がします。二つ目はペナルティ。一年生なので朝・昼・練習後と常にレーキ掛けをしていました。それでもイレギュラーがあればペナルティ。かなり厳し

い設定タイムのもと３００メートルのインターバル走です。当時ピッチャーとして練習していた私は練習でも走り、ペナルティでも走りと走ってばかりの毎日でした。三つ目は山上一郎校長先生の言葉。壮行式で語られたもので「弱くても勝つ。」練習時間が限られているため、身体の強化や技術の向上は残念ながら他校に劣る。けれども戦術を駆使することで勝利を手に入れることが出来る…たぶんこんなことだったと思います。数年前に開成高校野球部をモデルにした二宮和也主演の「弱くても勝てます」が40年前の興譲館高校で語られたことに驚きを感じます。

さて、そんな高校時代の戦績はというと

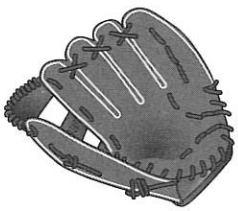
＊昭和55年夏の甲子園予選
２回戦　対　東海大山形
２－３
（ちなみにスタンドで応援でした）

＊昭和56年夏の甲子園予選
準決勝　対　酒田東
１－４
（出場したがあまり活躍できず）

＊昭和57年春の山形県大会
準決勝　対　日大山形
１－７
（なぜか何も記憶に残っていない）

＊昭和57年夏の甲子園予選
３回戦　対　酒田工業
１－２
（やはりあまり活躍できず）

月並みですが、同学年はもちろん、先輩そして後輩に支えられた３年間でした。いまさらですが、感謝申し上げます。また、母校野球部の活躍を今後とも期待しています。



頑張れ、野球部。

（昭和59年度卒）
吉田直史

母校を卒業して三十年以上がたちました。野球部では、旧校舎の狭いグラウンドで今英三郎先生と橋間一彦先生から監督としてご指導をいただきました。各学年二十人前後の部員がおり、自分は「その他大勢」の一人でした。捕手でしたので、練習時間の半分以上は投手陣とのロードワークに費やされ、戻ればブルペンという毎日で、練習時間も短く、実は、グラウンドでの練習はあまり記憶にありません。

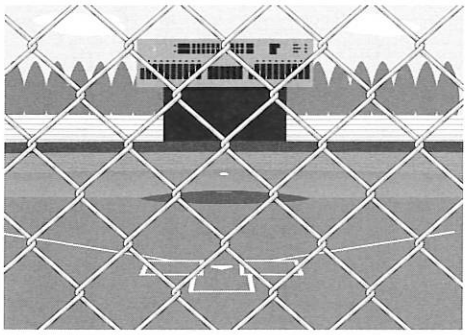
大学を出て高校の教員となり、酒田東高校、長井高校、長井工業高校の三校で、顧問や監督として高校野球にも関わらせていただきました。酒田東高校時代は、酒東が春のセンバツに出場した時の監督であった西塚寛監督（故人）のもとで学ばせていただき、秋の東北大会を二回経験させていただきました。長井高校では、金田吉弘監督のもと、現興譲館野球部監督の吉田真悟投手を中心とするチームで夏の大会ベスト８に進出するなど、高校野球に携わって充実した日々を過ごすことができました。対戦相手として興譲館野球部の後輩の活躍を目にする機会もあり、母校に負けたくないという強い気持ちも、私の野球指導に対するモチベーションを支えていたように思います。その後、学校現場を離れて仕事をすることになり、野球の指導に自分の中で区切りをつけた時期に、今度は息子が興譲館野球部に入部し、平成二四年から三年間は、興譲館野球部の保護者として皆様からお世話になりました。長く高校野球に携わった中で、ＯＢ会の諸先輩をはじめ、多くの野球関係者から公私ともにお世話になり、野球の技術や指導のノウハウのみならず、野球人として、指導者として、教員として、そして社会人としての生き方、在り方をご教示いただいたことは、自分にとってかけがえのない財産と思っています。

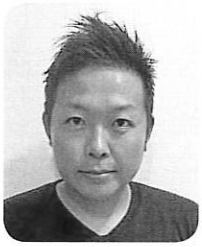
今、特に置賜地区の県立高校では、少子化や村山地区の高校への流出、部活動に対する生徒の意識の変化により、部員の確保や部の運営に苦労されている学校が以前より多くなってきたように感じます。思い描く高校野球ができず、悩み、苦しい思いをしている指導者の方や生徒諸君もいるかと思います。私自身も、長井工業高校の監督時代に同じような経験をしてきましたが、今振り返ると、大会で勝った時の思い出や経験よりも、苦しいときにあれこれ考えて勉強したことや、それを乗り越えようと

あれこれ工夫したことの方が、野球を離れた今でも自分の財産となっているような気がします。少ない部員の中で何ができるか、限られた時間で何ができるか、この施設設備をどう使うか、中学生の目標となる野球部にするにはどうするか、そして、どうすれば勝てるチームになるのかなど、一人ひとりの部員が考え、知恵や経験を結集して実行していくことが、チーム力を高め課題を解決する手がかりになると思います。

この夏の金足農業高校の活躍に、心が揺さぶられました。準決勝までのどの試合も、投手が安定し、守りが一つひとつのプレーを確実に行うことでゲームの流れを引きよせ、少ないチャンスに着実に得点を重ねていました。個々の選手の潜在的な高い能力を前提にせず、ゲームをつくれるエースを柱に勝つための戦術を考え、バントや走塁など、相手に左右されることが少ない技術を中心に鍛えていくことは、本来の高校野球チームづくりだと思います。多くの指導者や高校球児が、勇気とヒントを得たのではないかと思っています。

興譲館高校野球部には、親子二代でお世話になりました。夢は次の後輩に託しています。たくさんのＯＢの物心の支援は、時に大きな力となります。近い将来、後輩諸君が甲子園に旋風を巻き起こすことを切に祈っています。





高校野球の思い出

（平成12年卒）
齋藤　慎太郎

今年の第１００回高校野球選手権記念大会は、大阪桐蔭が史上初となる２度目の甲子園春夏連覇という偉業を成し遂げ幕を閉じました。有望な選手が数多く参加した大会を象徴するかのように、今秋のドラフト会議では12球団のうち実に11球団の１位指名が高校生野手３名に集中したことは記憶に新しいところです。

私の参加した大会は今年の大会から遡ること20年前の第80回記念大会です。甲子園本大会では、松坂大輔投手を擁する横浜高校が史上５校目の春夏連覇を果たしました。特に決勝までの３試合が印象深く、準々決勝で延長17回の末にライバルのＰＬ学園を下し、準決勝は０－６の劣勢から終盤に７点を挙げて明徳義塾に逆転勝ち、さらに決勝では京都成章を相手に松坂投手がノーヒットノーランを演じるという記録にも記憶にも残る大会でした。

さて、その年の山形県予選に挑んだ我々の代は、一言で言うととても明るいチームでした。個性的で明るいメンバーが集まったこと、後輩たちに恵まれたこと、そして何より渡部監督がとてもやさしい方だったことで、普段の練習からとても明るい雰囲気でのびのびと野球ができていたことを思い出します。

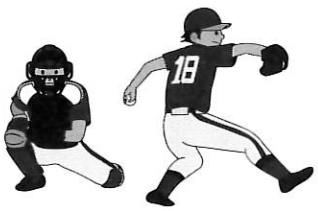
そんな我々の予選１回戦はシード、２回戦の相手は鶴岡南でした。当時我々が多少苦手にしていた高畠を１回戦で破り上がってきたチームを相手に初戦を迎えたことで、試合前は非常に緊張したことを覚えています。しかし、小野教頭（当時）をはじめとする先生方の寛大なご配慮で実現した全校応援から力を得た我々は、地元開催の地の利も活かして初回以降は徐々に緊張が解け、エース塚原の好投に加えて４番遠藤を中心とする打線がいつも以上に機能し、終わってみれば５回コールドの19－３と快勝、３回戦へと駒を進めました。

３回戦の相手は羽黒、会場は山形市野球場でした。置賜地区以外の県内強豪校と対戦する機会があまりなかった我々にとって羽黒は全くの未知数でした。試合中はとにかく無我夢中であっという間に９回が終わってしまったという感覚と、伝令の後輩が素敵なダジャレで劣勢の我々を和ませてくれたことを記憶しています。結果は善戦及ばず２－５で敗退、私たちの高校野球は終わりました。

あれからもう20年経ちますが、地元に残ったメンバーとは家族ぐるみの付き合いをしたり、東京にいる

メンバーとは私が出張の際に家に泊めてもらって深夜まで酒を酌み交わしたりと、いまだに親交が続いています。ただ、なかなか全員で集まる機会がありませんので、未婚のメンバーが結婚式で全員を招待してくれることを期待します。よろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、ＯＢ会の皆様の益々のご健勝とご多幸並びに3年生の皆さんの受験の成功を心よりお祈り申し上げます。



「お互い様」と「恩返し」

（平成16年卒）
戸田　怜

今年はＯＢ戦、同窓会総会、結婚式2回と、野球部の仲間と会う機会が多く、互いの近況を語り、テッパンの思い出話に花が咲く、かけがえのない時間を過ごすことができました。

私は現在、山形県立東桜学館高校で野球部の部長を務めています。本校の監督は、私の高校時代の恩師・吉田大治先生です。師弟コンビで野球部の顧問をするというのは、教え子冥利（という言葉があれば）に尽きるものです。

教員になってみて、高校時代の諸先生方からの教えを振り返り「そういうことだったのか」と思うことが多々あります。教育が10、20年というスパンで生きてくるものであると痛感します。私も、今の瞬間はもちろん、生徒たちが大人になっても、家族の中でも同じです（たぶん）。野球を通して、どんな集団の中でも、自分とチーム全体が最大限の力を発揮できるために行動することを学べると思います。

でも一番は、失敗と成功の両方を通して「野球が楽しい」「もっと野球が上手くなりたい」という気持ちを伸ばし、それを支援するのが指導者の役割なのかな、とも感じます。

話は変わりますが、昨今の野球離れの対策として、ＯＢの皆様にもご検討頂きたいと（超個人的に）考えているのが①保護者のお茶組当番の廃止（高野連では試合中のお茶配布は禁止）②野球道具を譲渡・安く譲る習慣・仕組みをつくる（吾●スポーツさん、ごめんなさい）③少人数でできる練習、試合形式の普及（5，5，4人チームで三色戦など）⑤女子ソフトボール、女子野球の活性化（父親がしなくても、母親がキャッチボールする）⑥行政の協

み重ねである野球の特徴です。私たちが生きる中でも、他人の力を借りずに生きることはできませんが、現代はその多くが有償無償の「サービス」という形をとっているため、なかなか意識できません。誰かのために誰かがやらなければならないことを一肌脱いで自分がやる、「お互い様」を合言葉に、サービスではない、温もりのある相互扶助関係を築いていく能力を、野球は育んでくれると思います。

「個人」が声高に叫ばれる時代ですが、私たちが目指すべきは、集団の中で自分の「利益・取り分」を最大化することではなく（そんなことしたら集団全体の力は上がらないので）、「集団全体のパフォーマンスを高める」ことだと思います。その方法として、自分の能力を高めることがあり、仲間と助け合い、先輩を支え、後輩を導くことがあります。それは高校野球でも草野球でも、会社でも地域

らないとわからないかもしれないことも、諦めずに（口うるさく）伝えていきたいと思います。

仕事柄、野球を通して身につく力のことをよく考えます。私が考えるのは、「お互い様」の能力、他者と自分のパフォーマンスを最大化できる能力です。（高校時代のチームメイトの皆様、「お前が言うなよ」というご意見はぐっと飲み込んでお読み下さい。）

野球は「助け合い」「お互い様」のスポーツだと思っています。自分が凡退して次の打者が走者を返す、投手がいい当たりを打たれても野手がアウトして0点で凌ぐ。助けてもらった分、面倒をかけた分を「恩返し」できるチャンスが回ってくるところが、チームスポーツかつ1対1の積

力で、キャッチボール可能な公園、場所確保＆キャッチボールで町興し（行政にお勤めのＯＢの皆様、どうかご検討下さい）

最後に、高校時代に自分の不注意から手術を伴うケガをした際、心配をかけた吉田監督、秋葉先生、応急処置と的確な病院を指示してくださった川村先生、チームメイト、担任の安部先生、友人、そして家族に、この場を借りて改めてお詫びと感謝を伝えたいと思います。本当にごめんなさい、そして本当にありがとうございました。千羽鶴と寄せ書きは大事にとってます。あのとき学んだことがあって、今の自分があります。今の子どもたちと野球に還元するのが、皆様への恩返しになると（勝手に）信じて、これからも頑張ります。最後になりますが、興譲館野球部の益々の発展を祈念いたします。

高校野球 3年間の思い出

前主将
佐藤豪郎

私はこの3年間で様々なことを野球部の活動を通して学ぶことができました。入学してすぐに野球部に見学に行き、今の仲間と出会うことができました。見覚えのある顔もあれば、初めて見る顔もありました。初めはすぐに仲良くなれず、一人で過ごす時間が多かったのですが、声を掛けられるようになってからは自分から話しかけることも増え次第にチームメイトとして打ち解けることができるようになりました。

入部してすぐに私は怪我をしてしまいました。最初は完治まで相当時間がかかると聞き、不安を感じましたが、「1年生のこの時期でむしろ良かった」と自分に言い聞かせ、焦らず過ごそうと考えるようにしました。実際に、当時は走ることすらままならない怪我でしたが少しずつ治すことができました。今思うと、焦らずその時の自分にできることに集中したことが怪我を治すことだけでなく、後の練習や自分の信念に大いに影響を与えたのだと思います。その後は、どんなに難しいことであっても、自分がやるべきことを徹底してやり続けるようになりました。

2年生になってからは内野手から外野手にコンバートされました。それまで経験の無いポジションをやるのは不安だらけでしたが、先輩や同級生に一から教えてもらったことで彼らと共に成長することができたのだと思います。その先輩たちと一緒にプレーし敗れた夏の大会ではこれまで感じたことの無い悔しさを経験しました。

3年生になって自分たちが最高学年として活動することになり、「必ず勝つ」という気持ちに「自覚と責任」という新たな気持ちが生まれました。保護者会やＯＢ会の方々から様々なお力添えを頂きました。綺麗なグラウンドでプレーすることができたのも、常にやる気に満ち溢れてプレーすることができたのもそのようなご協力のおかげだと感じました。その気持ちを持つことができたおかげで、この夏はベスト16まで勝ち進むことができました。そこまで勝ち上がることのできる「チーム」を作れたのもひとえに全員が同じ気持ちで一致団結したからだと思います。

この3年間で自分たちのチームを作ることができたのも、様々なことを経験し学ぶことができたのも、自分の周りの仲間や先生方、保護者、ＯＢの方々のお陰だと思っています。私は、最高の高校野球生活を送ることができました。

第１００回全国高等学校野球記念選手権山形大会へ向かう
現役選手からのメッセージ

日頃より野球部ＯＢ会の皆様から多大なご支援とご協力を賜り、誠に有り難く思っております。

さて、いよいよ夏の選手権山形大会の開幕が間近に迫ってまいりました。選手一同も目標達成に向けて、日々厳しい練習に打ち込んでいるところです。今年の甲子園予選は第１００回という記念大会です。この節目に、より一層のＯＢからのご声援を賜りたいと考えております。そこで、現３年生11名からＯＢ会の皆様に一人ひとりの決意や意気込みをお伝えし、応援に足を運ばれる際には、その選手の思いを共有して応援していただければと思います。

米沢興譲館高等学校野球部
部　長　小林　健也

佐藤　豪郎（さとう　たけろう）
〈米沢三中出身
ポジション：センター
キャプテン〉

日頃より様々な形で支援していただき、誠にありがとうございます。今年は守備でリズムを作って、攻撃につなげ、点を取るチームです。チームの持ち味を活かして必ず勝ち上がります。応援宜しくお願いします。

小笠原　空（おがさわら　そら）
〈米沢一中出身
ポジション：ピッチャー〉

大好きな野球ができて幸せです。これもＯＢの方々の支えがあってこそだと思います。ありがとうございます。

夏の選手権では粘り強く覇気のあるピッチングで勝利に貢献します。チーム一丸となって貪欲に戦います。Win the Respect!（チーム目標：尊敬される人間になる！）応援宜しくお願いします。

齋藤　匠（さいとう　たくみ）
〈赤湯中出身
ポジション：ピッチャー〉

ＯＢの方々のおかげで私達は成長できています。ありがとうございます。

夏の選手権では、精密機械となり、制球力でチームを勝利に導きます。ＯＢの方々、保護者、選手、指導者が一丸となって勝利を掴みましょう。応援をお願いします。

後藤　旭陽（ごとう　あさひ）
〈米沢六中出身
ポジション：セカンド〉

日頃よりご支援をいただき、ありがとうございます。夏の大会まで日数も無い中、時間を、一分一秒も無駄にせず、密度の濃い練習をしています。熱く、厳しく全力プレーで戦います！応援お願いします。

川崎　李成（かわさき　りせい）
〈米沢二中出身
ポジション：ショート〉
いつもご声援いただきありがとうございます。一回戦の相手も決まり、チームの雰囲気もより良くなっています。大会では、しっかり打って、守って、少しでも長くこのチームでプレーできるように頑張ります。応援、宜しくお願いします。

我妻　大誠（わがつま　たいせい）
〈米沢四中出身
ポジション：レフト〉
日頃から興譲館野球部を応援していただき、ありがとうございます。
平成最後の夏に、少しでも長くこのチームで野球ができるように、チーム全員で最後まであきらめずに全力プレーで頑張ります！ご声援、宜しくお願いします。

村上　昂輝（むらかみ　こうき）
〈米沢五中出身
ポジション：ライト〉
ＯＢ会、ＯＢの皆様方のおかげで、今僕たちは思い切りプレーをすることができています。その感謝の気持ちを力に変えて、夏の大会では自分たちのベストプレーをしていきます。応援をお願いします。

鈴木　雅宏（すずき　まさひろ）
〈米沢五中出身
ポジション：レフト〉
いつも野球部を支えていただき、ありがとうございます。毎日野球に取り組めるのはＯＢの方々のおかげです。
今年のチームは「先手必奪」をテーマにしていて、先手を必ず奪って一気に勝ちに行くことを目標としています。夏の大会でも、先手を奪って一気に勝ちに行きたいと思います。最後まで諦めない熱いプレーで熱く戦おうと思うので、応援宜しくお願いいたします。

加藤　嶺雄（かとう　れお）
〈南原中出身
ポジション：レフト〉
いつもご支援をいただきありがとうございます。今年の興譲館はとても元気のあるチームです。その元気と今まで自分達がやってきたことを信じて勝ち抜きます！応援宜しくお願いします。

髙橋　春香（たかはし　はるか）
〈米沢四中出身
マネージャー〉

いつも様々な形で興譲館野球部を支援していただき、ありがとうございます。

7月12日から開幕する夏の甲子園予選は、私達3年生の全てを出し切る場になります。また、「平成最後」、「第１００回」とつく高校野球史において特別な大会でもあります。

恵まれた環境で大好きな野球をさせてもらえることに感謝しながら、興譲館野球部にとっても語り継がれるような特別な大会になるよう全力を尽くして戦います！応援宜しくお願いします。

藤橋　葵（ふじはし　あおい）
〈米沢一中出身
マネージャー〉

毎年ＯＢ戦の際にいただく試合球や、グラウンド整備や道具の費用等、様々な支援をしていただき本当にありがとうございます。

今年のチームは、チャンスで1本を決めるような「ここぞ！」という時に魅せてくれる選手がたくさんいます。私は、今が一番楽しいので、夏の大会まで残りわずかですが、全力でサポートしたいと思います。応援宜しくお願いします。

今シーズンを振り返って

監督　吉田真悟

今年度より伝統ある米沢興譲館高校野球部の監督を仰せつかりました、吉田真悟です。何卒、よろしくお願い申し上げます。

4月からグラウンドで選手と一緒に汗を流させていただき、前監督である多田先生の冬期間の練習がいかに素晴らしいものだったのかと、同じ指導者として参考になるものばかりでした。その3年生を中心としたチームは、試合を重ねる毎に課題を解消しながら更に強く、更に強くなっていきました。その結果、沢山のＯＢの方々と全校生、職員の応援を受けながら3回戦を戦えたことは、非常に嬉しく、選手を誇らしく感じます。目標である「甲子園で校歌を歌う」ことは出来ませんでしたが、今年の悔しさを糧に更に興譲館野球部の力が向上するよう、尽力させていただきます。

今年のチーム体制は、部長にＯＢである小林健也（平成6年卒）、顧問に6年目となる五十嵐雄大と高校野球経験者3名で指導しております。併せて、8月より専属のトレーナー（黒田洋）にも付いていただき、心技体全てでレベルアップできる環境が整っております。また、本校教員として強豪横浜隼人高校野球部で指導実績のある井上啓（平成19年卒）もおり、その経験を活かして空き時間などで投手中心に的確な助言や指導をしてもらっております。引退した3年生は選手9名、マネージャー2名、2年生は選手7名、1年生は選手7名、マネージャー2名となっております。現在は1、2年で選手14名、マネージャー2名で来シーズンでの活躍をイメージしながら、基本練習、体力づくりに励んでおります。また、主将の武井作斗（米沢二）が平成30年度山形県高等学校野球連盟強化指定選手（県選抜選手）に選ばれました。他校の主力選手とともに大学生や社会人のレベルの高い野球を体感し、チームに多くのことを持ち帰ってきてくれるはずできればとも思いましたが、彼らの情熱だけでも伝われればと思います。興譲館野球部の現役選手と一緒に、球場で熱い夏を経験していただけば幸いです。重ね重ねになりますが、何卒宜しくお願い致します。

球場まで足を運んでくださるＯＢ会の皆様から応援いただく際に、選手のことを少しでも知っていただきたいという思いで、事務局に許可をいただき、このような書面を作らせていただきました。選手の特徴やプレースタイル等もお伝えで

す。

米沢興譲館高校野球部

【目　的】

Win the respect!

【目　標】

甲子園で校歌を歌う

【チームテーマ】一所懸命

【学年テーマ】我慢

【平成30年春季大会】

《地区大会》

○1次予選　2回戦

対長井　7－3

代表決定戦

対米工　0－8（7コ）

○2次予選　代表決定戦

対米中央　1－9

（7コ）

代表決定戦

対長工・米東・小国連合　13－3（6コ）

※2年ぶり県大会出場

《県大会》　1回戦

対鶴岡工　2－9

【平成30年甲子園予選山形県大会】

1回戦

対寒河江　5－2

2回戦

対長井　16－4（5コ）

3回戦

対酒田南　3－15（5コ）

※5年ぶりベスト16

【平成30年秋季大会】

《地区大会》

○1次予選　2回戦

対米工　13－11

代表決定戦

対九里　3－6

○2次予選　代表決定戦

対米商　11－1（6コ）

《県大会》　1回戦

対新庄北　11－5

2回戦

対日大山形

0－14（5コ）

【1年生大会】

※米沢商業と2年連続合同

《地区大会》

○1次予選　1回戦

対米工　5－2

2回戦

対置賜連合（荒砥・南陽・高畠・置農・米東）

10－0（5コ）

代表決定戦

対九里　5－6

○2次予選

代表決定戦

対置賜連合　10－8

（延長タイブレーク）

《県大会》　1回戦

対羽黒　3－10

1年を通して、ＯＢ会より寄贈いただいたマシンを活用し、速球に力負けしない打撃力の向上に取り組んできました。その結果、１４０キロを超えるスピードボールにも対応することができるようになりました。しかし、変化球を混ぜられると対応できず、淡白な攻撃になる場面も多くありました。また、秋季県大会1回戦でも勝ちはしましたが、失策が8個と野球の原点である投手を中心とした守り勝つ緻密な野球には程遠い現状です。これから冬期間の練習で、1つ1つ課題をクリアしていきます。

【追記】

今年1年、興譲館野球部に携わらせていただき、ＯＢの方々の母校野球部への想いの強さに感銘を受けました。出席させていただいたＯＢ会総会では、選手たちにいかに練習しやすい環境を作ってあげるか、ＯＢとしてどのような行動をすべきかなど、本当に親身になって考えていただきました。夏のＯＢ戦につきましても、若手中心とはいえ、母校野球部への想いは変わらず、後輩の現役選手たちにとって大変刺激になる試合をさせて頂きました。例年通り夏季休業中には、ＯＢである船山仁先生（昭和52年卒）率いる春日部工業高校に来ていただき、試合中での的確な指示や戦術など多くのことを学ばせていただきました。夜には、本県高校野球に携わっている多くのＯＢが集まり、船山先生を囲んでの勉強会を開催いたしました。

前監督多田先生が、昨年度ＯＢ会報に載せた野球人口減少の話題は今年度も歯止め利いておりません。中学校野球経験者の40％が高校野球を知らずに野球から離れていってしまっています。野球人口を増やしていくためには、興譲館野球部から高校野球の概念を変えていかなくてはならないのではと考えております。本来の野球の楽しさを追及しつつ、山形県内で上位進出する。この両立は非常に難しいことかもしれませんが、本校野球部にしかできないことだと強く自覚し、選手と一緒に日々精進していきますので、今後ともご支援、ご協力お願いいたします。

平成30年８月15日に開催された、ＯＢ戦の案内を掲載させていただきました。
今後も、同様の要項により、継続開催を企画しております。
主旨に賛同いただき、ＯＢ多数の参加をよろしくお願い致します。

平成29年度　米沢興譲館高校野球部ＯＢ戦について

盛夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、８月15日に毎年恒例となっております興譲館高校野球部ＯＢ会総会及びＯＢ戦が行われます。ＯＢの皆様におかれましてはご多忙の中かと思いますが、白球を追っていた青春時代を思い出し、世代を越えた交流ができればと考えております。つきましては同級生、先輩、後輩お誘いあわせの上参加いただければと思います。

内　容

午前：１・２年生との試合（大学生の方を中心に参加いただけると幸いです。）
午後：ＯＢ同士の試合（１打席のみ、守備のみなどの参加も可能です。）

日　程

９：００　ＶＳ１・２年生　プレイボール
１２：３０　参加者集合（チーム分け）
１３：００　開会行事
　１．開会のあいさつ
　２．ＯＢ会長あいさつ
　３．現役選手あいさつ（新チーム主将）
　４．記念品贈呈
１３：３０　始球式（ＯＢ会長）
　ＯＢ戦
１６：００　閉会行事（記念写真撮影）
１８：１５　ＯＢ会総会　於：モントビュー米沢（是非ご参加ください）

参加を希望されるＯＢの方は下記幹事までお電話、ハガキ、メール等を通じて①お名前②卒業年度をご連絡ください。
なお、参加料は徴収いたしませんが、毎年審判、補助役員をしてくれる母校後輩に試合球を贈呈しています。つきましては試合球代として１人500円ご協力をいただければ幸いです。また、昼食を希望される方は、弁当500円で手配いたしますので、申し出ください。

平成30年度ＯＢ戦幹事（平成28年度より５学年周り番で担当しています）
笹木　　覚（平成17年卒）電話：070-6614-0061
佐野　友彦（平成22年卒）電話：080-6025-1454
土屋　　賢（平成27年卒）電話：090-5833-0199

学年代表幹事

卒業年	氏名
S44	布川裕行
S45	高梨衛
S46	永井隆
S47	遠藤敬
S48	宇津江信彦
S49	池内正一
S50	竹俣兼一
S51	栗林雄二
S52	大河原敦
S53	井上恭男
S54	大越路可
S55	後藤利明
S56	山田和男
S57	大武義孝
S58	中沢秀隆
S59	吉田直史
S60	菅原浩
S61	後藤篤也
S62	井上武司
S63	村田和彦
H1	鈴木雅満
H2	渡部晃央
H3	斉藤真徳
H4	地主忠亮
H5	吉田大治
H6	小林健也
H7	井上友和
H8	金沢凡子
H9	遠藤謙司
H10	相田洋一
H11	齋藤慎太郎
H12	丸山信輔
H13	鈴木宏治
H14	嘉藤之浩
H15	佐藤勝治
H16	戸田怜
H17	小野裕介
H18	淀川竜也
H19	菅野英志
H20	福嶋なつみ
H21	土屋岳
H22	井上尚人
H23	小関直紀
H24	神保智貴
H25	歌丸裕彬
H26	渡部晃史
H27	土屋賢
H28	小林哲也
H29	梅津謙吾

平成30年度米沢興譲館高等学校野球部名簿

監督：吉田真悟　部長：小林健也　顧問：五十嵐雄大
トレーナー：黒田洋

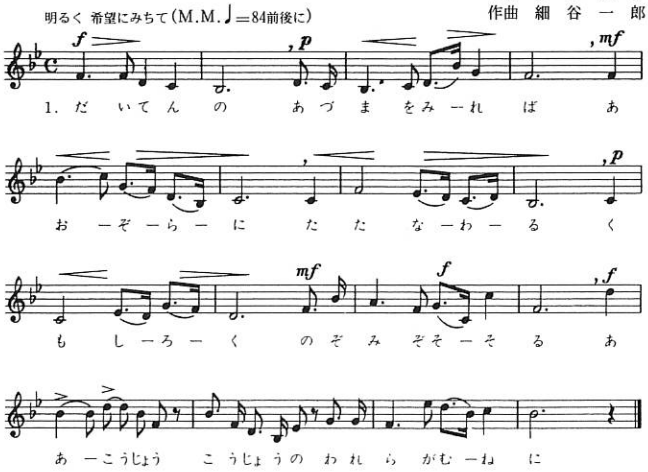
	学年	氏名	出身校	学年	氏名	出身校	学年	氏名	出身校
1	3年	加藤嶺雄	南原	2年	油井陸斗	米沢一	1年	近野真弘	米沢四
2	3年	後藤旭陽	米沢六	2年	齋藤創太	米沢五	1年	髙橋暖人	川西
3	3年	我妻大誠	米沢四	2年	佐藤優樹	米沢四	1年	渡部大晟	米沢四
4	3年	小笠原空	米沢一	2年	戸田晃平	米沢五	1年	中沢来那	米沢五
5	3年	川崎李成	米沢二	2年	原田峻介	高畠	1年	遠藤直英	白鷹
6	3年	髙橋春香	米沢四	2年	原州平	米沢六	1年	玄番小次郎	南原
7	3年	齋藤匠	赤湯	2年	武井作斗	米沢二	1年	大内駿輔	米沢一
8	3年	佐藤豪郎	米沢三				1年	杉浦巧都	米沢三
9	3年	鈴木雅宏	米沢五				1年	情野太陽	米沢二
10	3年	藤橋葵	米沢一						
11	3年	村上昂輝	米沢五						

野球部ＯＢ会役員紹介

役員名	氏名	卒業年
顧問	駒形衛	S25
顧問	高野譲	S29
会長	小野隆夫	S34
副会長	遠藤敬	S47
兼事務局長	井上恭男	S53
理事	栗林雄二	S51
理事	荒澤芳治	S54
理事	大越路可	S54
兼事務局補助	我妻弘一	S61
理事	吉田大治	H5
理事	佐藤勝治	H14
理事	小野裕介	H17
監事	安達治雄	S33
監事	斎藤隆志	S42

米沢興譲館高等学校校歌

作詞 浜田廣介
作曲 細谷一郎



一、大扇の吾妻を見れば
青空にたたなわる
雲白く望みぞそそる
ああ興譲　興譲のわれらが胸に

二、わが校の歴史は古く
人あまたあと継ぎて
業につき努めをなせり
ああ興譲　興譲のわれらも励め

三、人みなの命をあがめ
わが力わが誠
世のために尽くさんこれぞ
ああ興譲　興譲のわれらが心

事務局より　平成30年度　米沢興譲館野球部ＯＢ会総会

ＯＢ総会は、去る８月15日㈬、恒例となりましたホテルモントビュー米沢で開催されました。

平成29年度事業報告及び収支決算報告が行われ承認されました。役員改選後、30年度事業計画及び予算案が上程され、全て承認となりました。新役員体制の下、今後ともＯＢ会活動が充実したものとなる様、頑張りたいと思います。

年に一度の総会に、多くの会員が集えるような会となります様、事務局として運営していきたいと思います。

平成30年度　予算書

一般会計　自：平成30年７月１日　至：平成31年６月30日　単位：円

収入の部			支出の部		
科　目	予算額	摘　要	科　目	予算額	摘　要
前年度繰越金	289,058	郵貯　35,174 信金 253,834	総　会　費	250,000	8月15日 ホテルモントビュー米沢
維持会費	800,000	1口　5,000 160口　目標	総会準備費	160,000	総会案内 当日総会資料印刷 記念写真郵送等
卒業生入会金	33,000	H30年度 卒業生　11名	激　励　費	40,000	激励費 20,000 OB戦差し入れ等 10,000 保護者会祝金 10,000
総会会費	200,000	40名にて	活動支援費	150,000	援助金
役　員　会	40,000	年2回の予定	会報発行費	160,000	会報印刷費 原稿依頼費用等
預金利息	2		OB連合会関係費	42,000	負担金　20,000 総会参加費　20,000 役員案内費
			特別積立金	150,000	特別会計に積立
			役員会議費	80,000	年2回の予定
			郵便為替手数料	14,000	郵便為替払込料 振替為替用紙作成料含
			事務用品費	20,000	封筒・印刷・コピー 用紙等事務用品
			備　品　費	30,000	応援グッズ （帽子）
			予　備　費	266,010	
合　計	1,362,010		合　計	1,362,010	

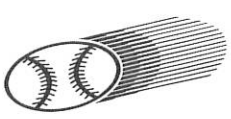
特別会計　単位：円

収入の部			支出の部		
科　目	予算額	摘　要	科　目	予算額	摘　要
前年度繰越金	1,457,395		取　崩　額	0	
特別積立金	150,000		次期繰越金	1,707,400	
卒業生貸付金	100,000	回収予定			
預金利息	5				
合　計	1,707,400		合　計	1,707,400	①

卒業生貸付金（2口）　単位：円

H22年度卒業生			50,000	50,000円の回収予定
H23年度卒業生			48,000	50,000円の回収予定
合　計			98,000	②

特別積立金＋卒業生貸付金		次期繰越金	1,805,400	（①＋②）



Baseball

平成29年度　収支決算書

一般会計　自：平成29年７月１日　至：平成30年６月30日　単位：円

収入の部			支出の部		
科　目	決算額	摘　要	科　目	決算額	摘　要
前年度繰越金	381,598	郵貯　45,916 信金　335,682	総　会　費	139,240	8月15日 ホテルモントビュー米沢
維持会費	660,000	1口　5,000 79名　132口	総会準備費	157,575	総会案内 当日総会資料印刷 記念写真郵送等
卒業生入会金	18,000	H29年度 卒業生　6名	学年代表理事会費	109,230	H30年4月21日 招湯苑 22名参加　案内状等 2月10日 粗酒1,998
総会会費	135,000	総会当日会費 27名参加 （来賓3名）	激　励　費	34,944	激励金　20,000 OB戦差し入れ 4,944 保護者会祝金 10,000
学年代表理事会費	55,000	H30年4月21日 招湯苑 22名参加	活動支援費	150,000	活動援助金
役　員　会	48,000	7月11日　招湯苑 12月12日　鳥勝	会報発行費	140,246	会報印刷費 原稿依頼費用等 1,212
本販売費	4,000	『部活のあゆみ』 販売	OB連合会関係費	25,984	負担金　20,000 総会参加費　5,000 案内状　984
預金利息	2	9月10日　1 3月11日　1	特別積立金	100,000	特別会計に積立 6月26日
			役員会議費	86,512	7月11日　招湯苑 12月12日　鳥勝 案内状　2,132
			郵便為替手数料	10,742	郵便為替払込料 8,640 印字サービス料 2,102
			慶　弔　費	25,347	献花・弔電 村山晃氏
			事務用品費	4,772	タックシール・ トナー コピー用紙等
			備　品　費	28,000	応援グッズ （帽子）
			次期繰越金	289,008	郵貯　35,174 信金 253,834
合　計	1,301,600		合　計	1,301,600	

特別会計　単位：円

収入の部			支出の部		
科　目	決算額	摘　要	科　目	決算額	摘　要
前年度繰越金	1,357,383		取　崩　額	0	
特別積立金	100,000	6月26日	次期繰越金	1,457,395	
預金利息	12	10月1日　6 4月1日　6			
合　計	1,457,395		合　計	1,457,395	①

卒業生貸付金（2口）　単位：円

H22年度卒業生			100,000	
H23年度卒業生			98,000	
合　計			198,000	②

特別積立金＋卒業生貸付金		次期繰越金	1,655,395	（①＋②）

上記、収支決算について帳簿等を監査の結果、その内容は正確であり適正であったことを認めます。

平成30年７月６日

監事 安達治雄　監事 藤隆

県内外各地でＯＢ会員の方々が野球指導にたずさわっておられます。

米沢興譲館野球部 OB 会員　野球部関係者

（平成30年11月30日現在）

卒業年	氏名	赴任校
S46	高橋憲治	工学院大学付属高校
S49	池内正一	山形県立山形工業高校
S52	船山仁	埼玉県立春日部工業高校
S58	武田伸彦	飯豊町立飯豊中学校
H5	木戸拡	最上町立最上中学校
H5	吉田大治	山形県立東桜学館高校
H6	小林健也	山形県立米沢興譲館高校
H6	東海林義信	山形市立第十中学校
H9	遠藤謙司	山形県立長井高校
H12	丸山信輔	山形県立高畠高校
H12	吉川和宏	高畠町立高畠中学校
H14	石黒修平	米沢市立第五中学校
H16	遠藤彰秀	東京都昭島市立瑞雲中学校
H16	戸田怜	山形県立東桜学館高校
H20	坂川拓磨	米沢市立第二中学校
H20	福嶋なつみ	山形県立新庄神室産業高校
H21	土屋岳	山形県立長井工業高校
H22	冨水研大	南陽市立宮内中学校
H22	佐野友彦	山形県立小国高校
H24	佐藤祐	福島大学

現在、情報収集中です。H30年11月30日現在で事務局が把握している情報です。情報があれば、事務局　井上　恭男までメールアドレスyasuo830@beige.plala.or.jp

平成29年度　ＯＢ会会費納入者

（平成30年6月30日現在）　（50音順）

5,000円
佐久間章夫
笹木覚
佐藤勝治
佐藤隼平
佐藤啓明
島貫昌博
情野亮
添川清貴
園田直子
高橋憲治
高橋昌義
高山忠
武田昌子
田島圭
田中久雄
土屋岳
堤和司
戸田怜
布川裕行
長谷部大典
舩山遼一
丸田義弘
山口玄
山口弘
山田和男
山村寿雄
山村嘉弘

10,000円
佐野友彦
鈴木四朗
鈴木利実
鈴木雅満
武田忠一
福田英寿
古川愛一郎
吉川和宏
吉田大治
我妻弘一
5,000円
池村義人
伊藤良久
伊藤亮平
江川栄助
遠藤俊弥
大武清夫
大場善次郎
門倉祐貴
川北正昭
川村博人
小関優子
後藤篤也
後藤彰三
後藤利明
小林徳勇
齋藤良一

30,000円
菅原浩
20,000円
梅津伊兵衛
佐藤茂
袖山修
渡辺孝一
15,000円
小野隆夫
菅野武巳
齋藤隆志
髙野譲
山川広治
10,000円
安達治雄
五十嵐俊隆
井上寛
井上恭男
遠藤敬
大越路可
太田浩
尾形精一
小野裕介
川野部雄二
木村尚武
桑島敏行
駒形衛
近野洋一
佐藤廣吉
佐藤宏

今年度の維持会費の納入に関しては、現在のところ、平成30年度予算の維持会費予定納入額を大幅に下回っております。

本会の維持会費につきましては、ご承知の通り、

一口　五、〇〇〇円

になっておりますが、是非とも多数口でのご協力を是非お願いしたいと思います。

また、今まで一度も納入いただけなかった会員の皆様には、なにとぞ一口でもご協力いただきたくお願い申し上げます。

同封の振込用紙で、お早目の納入をくださるようお願いいたします。

編集後記

おかげさまで、今年度も会報を予定通り　会員皆様にお送りすることができました。

この度も貴重なご寄稿をいただいた会員各位には深く感謝致すところではあります。

事業報告として、今年度も8月15日に実行委員の方々の協力の下、ＯＢ戦を開催することができ、その折の模様もこの会報でご紹介できましたことうれしく思います。来年も同様の要項で開催したいと考えておりますので、奮って参加していただき、併せて、総会で旧交を温め合っていただきたいと思います。

また、米沢興譲館同窓会ホームページにて、野球部に関わる情報を発信し、広くアピールして行きたいとも考えておりますので、ご意見等ございましたらご連絡ください。

事務局
〒992-0054
米沢市城西4-4-16
井上恭男
メールアドレス
yasuo830@beige.plala.or.jp